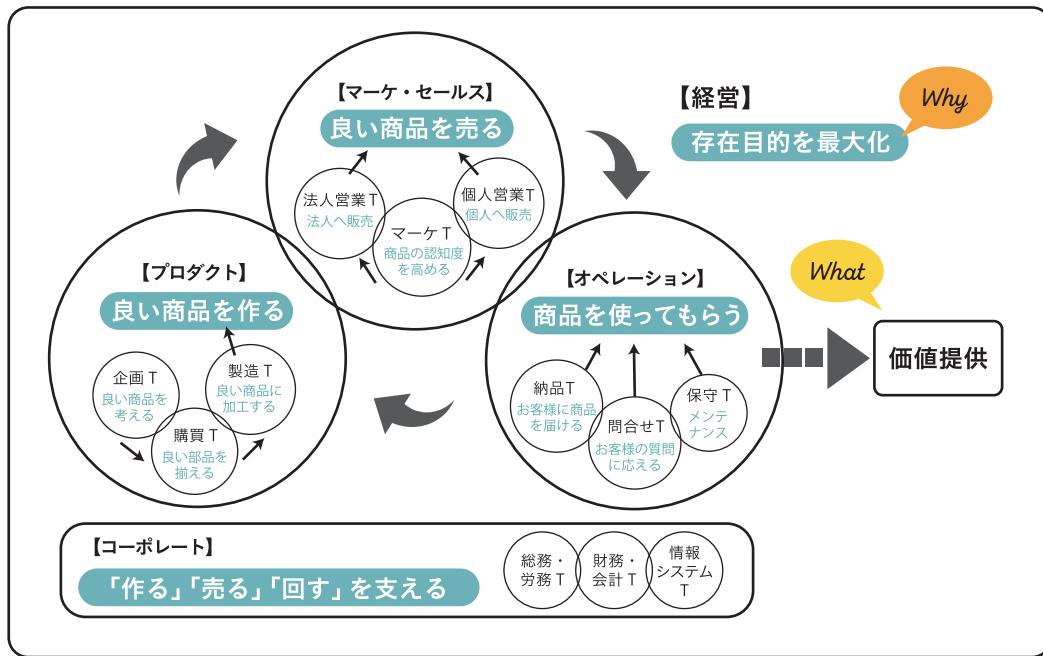


## 【1】チームの目的を確認する

同じ目的の「業務のかたまり」からチーム編成を行いましたが、「作る」「売る」「回す」のチームの目的はそれぞれに関連しあって、最終的に提供価値（Whatの「言葉」）に繋がります。しかし、ガチガチに目的を固定化させるのではなく、こちらの方向へ活動すると「言葉」につながりそう。といった少し余白のある”方向感”を組織全体で共有することが大切です。



## 【2】「目的」「目標」の違いと KPI

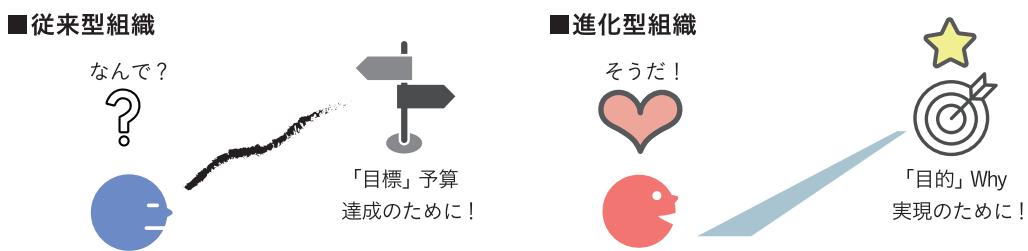
「数字」を紐付けする時に大切なことはチームの目的（なんのために？）を明確にしていくことです。「目的」に到達するためには活動が必要になります。その具体的な活動をいつまでに（期限）、どんなふうに（質）どれくらい（量）行うのかが「目標」となります。「数字」はチームが「目的」に近づいているかを客観的に判断するためのものと、「目標」に対する活動によって変化するものの2種類があり、「目標」の「数字」が目的化してしまうことがあるので、本来の「目的」を見失わないように分けて整理するのがポイントです。

この「目的」に近づいているかどうかを判断する「数字」を KPI (Key Performance Indicator) と言います。本当に「目的」に近づく「目標」かどうかは行動してみないと分からないので、最初は仮説として設定し、定期的に KPI の数字が改善しているかをチェックし、「目標」を最適化することが必要です。



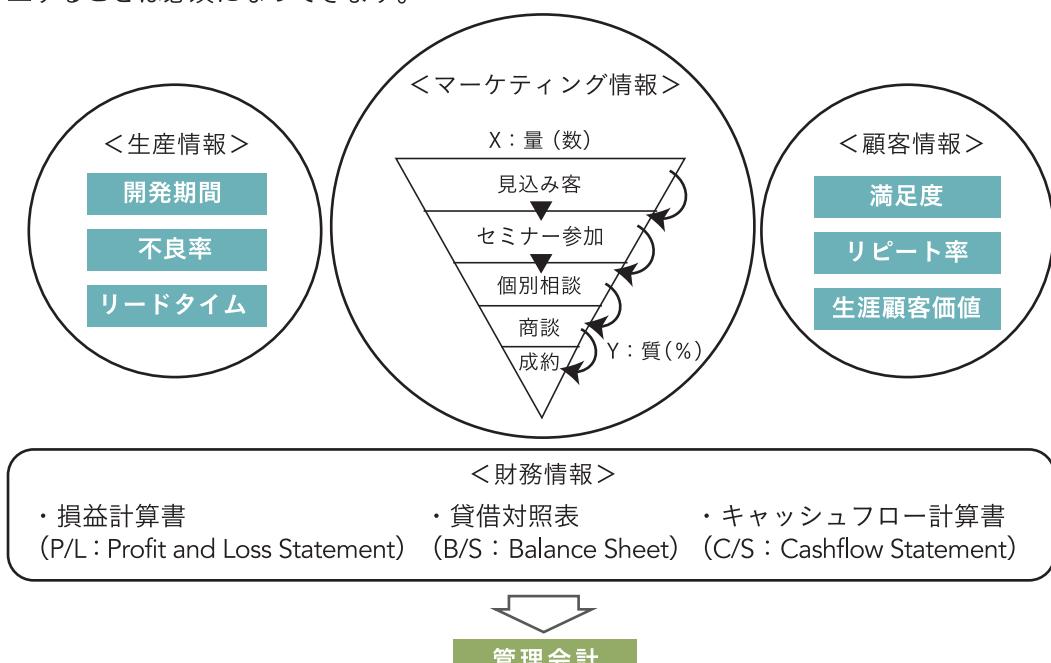
### 【3】「予算」ではなく「予測」数字

これまでの従来型組織の場合「数字」というと売り上げ目標「予算」が連想されると思いますが、進化型組織での「数字」は現状をしっかりと把握し、そのまま推移した場合に見えてくる確率の高い未来の「予測」になります。従来型組織の「予算」では目標が目的化してしまい、そもそもなんのために活動しているのかが抜け落ちることが多々あります。しかし、進化型組織ではしっかりと現状を把握することで、組織の存在目的をはたすために何ができるのかをメンバーそれぞれが考えられるようになるので、自律分散的にチームが機能します。



### 【4】分かりやすい「数字」にする

組織には様々な「数字」がありますが、全て「目的」に対して機能しているかどうかの判断に繋がる「数字」でなければ意味がありません。また、「目的」の抽象度が高いと、客観的に判断できる「数字」を設定するのが難しい場合もあるので、ここも仮説をたてて検証していくことと、「数字」そのものを分かりやすく加工することも大切になります。特に組織全体の経営に関する「数字」の<財務情報>に関しては、そのままで一部の知識のある人しか意味を理解することができないので、分かりやすく<管理会計>に加工することは必須になってきます。



自社の経営に活かすために作成する、社内向けのオリジナル会計です。人は、管理会計の情報をもとに、自社の経営について分析したり意思決定を行ったり、商品開発や人事に関する施策を打つことができます。



## Day 8 session

対象：各業務チーム



## チームの「目的」と活動内容を考える

(1) チームメンバーの中からドライバーを決める

(2) ドライバーのファシリテートでチームの

「目的」と「目標」について話し合う

## ★リーダーではなく『ドライバー』

進化型組織のチームではチーム「目的」に率先して近づけていく役割の人を『ドライバー』と呼んでいます。これまでの従来型組織ではリーダーやマネージャーといった呼ばれ方でしたが、これらの言葉には権限や管理といったニュアンスが含まれてしまい、自然にチーム内で階層が生まれてしまいます。『ドライバー』はチームを導いて行きますが、疲れたら自由に交代もできます。

## ★進化型 OS をチームで体感する

『ドライバー』やチームの「目的」を考える時に、ユニット 05 の進化型 OS の意志決定の仕組みに沿って決めてみて、感じたことをシェアしてみましょう。

 Action for Day9

対象：各業務チーム

- ① チームの活動に関する「数字」を準備しておく

情報  
環境

チームの活動に関する「数字」をデジタルツールを使って共有できる環境を整える。